

体育大会を成功させよう！

今年も9月は、とても暑い日が続きましたが、彼岸を過ぎたころから、ようやく秋の気配が感じられるようになりました。体育大会へ向けての練習では、クラス対抗大縄跳びで、一生懸命に取り組む姿がどのクラスにも見られ嬉しく思いました。中でも、3年生は、練習段階で100回を超えるチームがたくさん出ました。さすが3年生です。経験とチームワーク、それに体力面でも力強さを感じました。生徒集會でお話しましたが、結果と同じくらい過程が大切です。「一人はみんなのために、みんなは一人のために」の気持ちを強く持って、クラス一丸となって戦い抜いてください。素晴らしい大会になることを期待しています。



防災講話から学んだことを大切に！

9月9日(月)に、東日本大震災で避難所の責任者を経験され、現在は、地域安全・学校安全・防災アドバイザーとして、全校の学校を回って、講演や防災授業をされている吉田亮一さんに来ていただきました。避難所で苦労したお話を聞かせていただき、大地震が確実に来るという意識と大地震に備えることの大切さを教えていただきました。特に、家の中の地震対策と数日分の水と食料の備蓄の大切さを学びました。



生徒集會楽しかったですね！

9月の生徒集會では、生徒会代表の皆さんの発案で、全校生徒で「ジャンケン列車」をして縦割り交流をしました。ルールは簡単です。列の先頭の人同士でジャンケンして、負けたら、その列の後ろにつながって、大きな列車をつくるゲームです。こんなにも楽しめるのかと思うほどの盛り上がりでした。体育大会に向けての雰囲気づくりしてくれた生徒会代表の皆さんに感謝感謝です。



チャレンジテストがんばりました！

3年生は、いよいよ中学校生活も残り6か月になりました。クラブを引退して、高校受験へ向けて精一杯頑張っています。9月3日には、「大阪府チャレンジテスト」に挑戦しました。みんな真剣な表情で、テストに向かっていました。3年生の皆さん一人一人の希望が実現できるよう、先生たちも頑張ります。自分の力を信じて、やり抜きましょう！



大阪府 中学生 絵画コンクールで 大賞受賞！

田尻中学校の美術部が快挙です！3年生の さんが、大阪府 中学生 絵画・イラスト・マンガコンクールで大賞を受賞しました。作品は、第15回帝塚山ジュニアアート展に出展されました。

※受賞作品は帝塚山学院高等学校美術コースホームページにて Web 展示されています。



大賞「ある民族の少女」

(校長 池本勝利)

今後の予定！

10/1(火)	体育大会 予行
10/2(水)	(火)の時間割 午後:体育大会準備
10/3(木)	体育大会 (雨天中止の場合(金)の時間割)
10/4(金)	体育大会 予備日
10/7(月)	【3年生】第2回学力診断テスト
10/8(火)	モアレ検査
10/10(木)	中間テスト 1週間前 部活動なし
10/16(水)	(木)の時間割
10/17(木)	中間テスト 1日目
10/18(金)	中間テスト 2日目
10/21(月)	5限授業 部活動なし
10/22(火)	個人教育相談(~25(金))
10/29(火)	【3年生保護者対象】進路説明会 15時 公民館
10/31(木)	【2年生】校外学習
11/5(火)	【3年生】第3回学力診断テスト
11/6(水)	【2年生】思春期ふれあい学習
11/15(金)	合唱コンクール
11/20(水)	【3年生】進路懇談会(~11/22(金)) 期末テスト 1週間前
11/27(水)	期末テスト(~11/29(金))

今こそ、地球環境についての行動を

毎年のことですが、私には今年の夏ほど「暑い」と感じたことはありませんでした。

冷房の効いた部屋から一歩外に出ると、熱波が体全体を襲います。帽子をかぶっていても、長い時間、外にいることはとっても難しいです。先日外でテント設営をしていた時も、少し動いただけで、激しい運動をした後の様に息が上がり、心拍数も高くなりました。



自分自身、灼熱の太陽の下や空調のない体育館で部活動指導をしてきた経験上、夏の暑さには強い方だと思っていましたが、近年の最高気温の更新や猛暑日(35°C超)の連続日数などの報道を耳にすると、「確実に地球は暑くなっている=温暖化が加速している」と言えます。

地球温暖化は二酸化炭素や水蒸気・窒素酸化物・メタン・オゾン・フロンなどの「温室効果ガス」の増加によって地球全体が温暖になることです。これに伴って気候変動が起こります。異常な暑さや干ばつに見舞われ、雨の降り方が極端になり、災害が発生しやすくなります。すると食料生産に異常をきたし、やがて人類に生存に危機をもたらします。



温暖化が深刻化する背景には、石油を中心とする燃料を人類が消費し続けている事が原因です。18世紀の産業革命以降、人々が便利な生活を手に入れ、人口が急増しているからです。世界中のあらゆる資源を採掘して流通し、資源消費は激しくなっています。発電・商品生産・大量輸送・大量消費…。もはや昔の生活には戻れません。

この問題に対して、1990年代から国際連合が対策に乗り出しました。現在は2016年発行の「パリ協定」によりすべての国が温室効果ガスの削減義務を負います。日本は2030年度に「2013年度から46%削減する事」を目指します。

世間では「節電」や「エコ」が叫ばれ、国連では「SDGs(持続可能な開発目標)」が設定され、国や企業とともに取り組んでいます。私たち国民も取り組んでいるはず…。しかしながら、この暑さの深刻化に熱中症の危険が併存し、もはや「節電」や「エコ」などのワードは聞かれなくなった気がします。

暑さと豪雨・干ばつ等によって、米・ブドウ・梨・トマト・みかんなどの農業作物が正常に生育しない例も多く報告されています。漁業でもサンマやウナギなどの不漁があらこちらで起こっています。火災による森林消失は20年で2倍に増えているそうです。



それに加え、これまでの想像を覆す災害の発生。台風などによる大雨、洪水、土砂災害には「特別警報」の発表も珍しくありません。温暖化に海水温の上昇、水蒸気的大量発生が「線状降水帯」をもたらし、今や日本のどこで災害が起きても不思議ではありません。

目標を掲げているものの、経済発展のためには大量生産・消費が必須となります。この矛盾が温暖化阻止に本腰になれない人類のジレンマとなっているのです。

国や企業がいくら頑張っても、消費する私たち住民が積極的に行動しないと温暖化の進行は止められません。自然災害の発生や災害級の暑さは地球から私たちへの警告です。このまま放置すれば確実に暮らせない地球になります。



私たちは決して自然を支配しているのではなく、自然によって生かされているのであり、私たちひとりひとりの行動が求められているのではないのでしょうか。具体的な行動については右のQRコードを参考にしてください。



季節はようやく秋へと移り変わっています。短い秋が終わって冬になれば、今度は「ドカ雪」と呼ばれる大雪に見舞われるようになったのも温暖化が原因です。暑さを忘れても、温暖化は確実に進行しています。一人一人が少しずつ力を出せば、そのパワーはより大きなものとなって効果を表します。

(教頭 横井武志)